



みちしるべ
道標

学園創立90周年記念誌

The 90th Anniversary (since 1928)



偉大なる平凡人たれ

創立者のことば

従来の教育のごとく、出世のための手段としてではなく、そういう功利を離れた教育の場をつくるということが、国全体の文化向上への大前提であると考えたのが、本学園創立の主旨であり、従って人間各自の使命を完全に果たし、それが生を享けた人間の生き甲斐であるという、教育のあり方を、私は考えた。

偉人となるとか、学者になるとか、名誉や地位の高い人間になるとか、金持ちになるとか等の、小乗的な功利主義的な考えを捨てて、いざとなれば、おのれを殺して人類社会に貢献する、それが自分の生き甲斐であり、そして、それが同時に平和で幸福な生活に繋がり、従って長い人生への生の喜びであるというような考え方を持って、平凡なようだが、かくなくてはならない人間社会構成への最もよき分子になる教育を私は考えた。これこそ、私の考えた人生において最も偉大なものであると……。

創立40周年誌(昭和43年刊)回想録 瀬島源三郎「創立の精神」から



創立者
瀬島 源三郎

明治維新後、近代国家の道を歩みはじめた日本は、大正デモクラシーの時代を迎えると、その波に乗って新しい文化が息吹いていた。教育界も新教育運動・自由教育という教育改革が試みられ、新しい教育をめざして、独自の学風を築こうとする私立学校開設の気運がみなぎってきた。

学園創立者・瀬島源三郎は、日本の産業経済の将来にとって、交通と産業の併行的発展こそが必須であり、そのための人材育成の重要性を痛感していた。

特に関西地区では、京阪神を中心にすでに鉄道事業がかなり発達していただけに、交通教育を担う私立学校の必要性は、いわば社会的要請でもあった。

こうして昭和3(1928)年に大阪鉄道学校の創立を実現した。赤手空拳の創立者であったが、その情熱に動かされた多くの協力者を得ることができた。鉄道省(現在のJR)勤務の経験が大きなバックボーンであった。

創立以来、本学は交通・産業教育に加えて、人間形成、創造性開発に重点を置く人材育成、自己確立の信念に生きる人づくり、即ち「偉大なる平凡人たれ」を建学の精神とする独自の学風を育んできた。それを通じて、深い人生観と広い世界観を養うとともに、新しい産業社会の発展と人類の福祉に寄与できる世界的視野に立つ近代的産業人の育成にたゆまざる情熱を傾け、日進月歩の社会発展に対応できる学府として貢献してきた。

交通と産業の 併行的発展を目的に開設

90年の 歴史が支える 揺るぎない道標

みちしるべ

1928年の創立以来、
私たちは常に理想の教育を追い求め、
真摯に成果をのこしてまいりました。
そして、100周年へ。
新たな理想へとまっすぐに導く
確かなみちしるべとなれるよう、
さらに努力を重ねてまいります。

「90周年に際して改めて自問する 学校は誰のものか」



理事長

吉岡 征四郎

このたび建学90年の節目を迎えました。次代を担う若者の修練の場として、時代の変遷とともに変化するその時々^の社会の期待・要請に的確に対応してきたからこそ、今日まで本学は存在し続けることができたと思えます。建学の精神を柱としながら、変えるべきものと変えてはならないものを見極め、果敢な自己改革にチャレンジして今日まで学園を運営してこられた先学の皆様方、そして惜しみなくご支援・ご協力を頂いてきた卒業生、保護者、地域の皆様方などすべての関係者の皆様方に心より感謝と敬意を表するものであります。

90周年は節目の年でもあり同時に通過点でもあります。ただ、今後長きにわたって本学が社会の期待に応え、学生・保護者の方に選ばれ続けることができるかどうかは、ひとえに今の、そしてこれからの、我々全職員の決意と行動にかかっていることを自覚しなければなりません。その決意と行動の原点になるものは、「学校は公共のもの」という自覚をあらゆる行動の基準とすることであるということ、私自身も含めて全職員に確認を求めたいと思えます。

そもそも学校で行われる教育・研究の事業は、企業のように利潤を目的にしたものではなく公共の目的として行われるものです。私立学校は、私人の寄附行為によって設立されるものですが、寄附財産はその時点で公共のものになった(私的なものでなくなった)ことを意味します。利潤を目的にした企業ですら今や「社会の公器」と言われるようになってきていますが、ましてや本来的に公共のものである学校がはたして公共の意思を的確に反映した事業運営を行っているかどうか、我々は常に厳しく自戒していく必要があります。学校は経営にあたっている役員のものでもなければ、職員のものでもありません。「自主性」や「自治」の名の下に、ややもすれば閉鎖的になりがちな内部の論理で学校の運営にあたっていないかどうか、公共の意思が運営に適切に反映できているかどうか、近年の不幸な出来事も想起しつつ、常に反省と改善の工夫を怠らないようにしていきたいと考えます。

次の節目である100周年を目指して、理事会、評議員会、監事など各機関のさらなる活性化及び各学校のガバナンスの一層の充実を図り、全職員が絶えざる自己変革にチャレンジし、生き生きとした教育・研究の場となるべく、学園を挙げて努力していきたいと考えます。関係者の皆様のご支援をお願いする次第であります。



常務理事

峠 孝尊

学園創立90周年を迎えて

昭和3(1928)年11月、創立者の瀬島源三郎先生は「偉大なる平凡人たれ」を建学の精神に掲げて、大阪鉄道学校を創設されました。これまでの変遷をたどれば、数えきれないほどの困難に遭遇してきたものと思われませんが、先人の献身的な努力により、関西でも有数の規模を擁する学園に発展して参りました。

近年は少子化による就学人口の減少や短期大学の4年制大学への改編などの影響で、私学を取り巻く環境は大きく変化し、厳しさを増してきております。こうした中、私立から公立へと設置形態を変更して志願者を増やしているケースが見受けられますが、こうした変更は容易に実現できるものではありません。やはり、大学間競争に打ち勝つには独自性を打ち出し、他に秀でるものを明確にすることが重要であると思えます。これは高校・中学でも同じことが言えます。

そういった意味からも、「学」、「食」、「住」を念頭において、大学院を含む大学、高等学校、中学校の在り方の検討、食環境の整備、さらには、学生・生徒を第一に位置づけた修学環境の整備が重要になります。このたびの90周年事業にも一部盛り込まれていますが、今後も継続的に取り組む所存です。

また、管理運営部門における最重要課題である財政基盤の確立への取り組みや内部統制の強化につきましても確実に実行して、10年後の学園創立100周年に繋げて行きたいと考えています。



法人本部事務局長

長澤 裕

これからの10年に向けて

このたび学園創立90周年を迎えることができましたことを、すべての職員の皆さん方とともに喜びたいと思います。同時に、これまで幾多の困難を乗り越えて、学園発展のために尽力されてきた諸先輩に感謝いたします。

ご承知のとおり、少子社会が進む中で今後日本の学校間競争が一層激化することは明らかであり、多くの学校法人が経営難に陥るだろうと言われております。このような状況下で我々が勝ち残るためには、環境の変化に即したさまざまな戦略をたてる必要があります。

まず、「財政基盤の強化」です。現在、学園の収支改善中期計画を実行中ですが、社会のニーズの変化に柔軟にかつ素早く対応するには、コスト構造のスリム化が不可欠です。

また、社会から選ばれる存在になるためには、「組織として必要なガバナンスを確保すること」が重要です。法人では、これまで理事会や監事機能の強化、評議員会の活性化などに取り組んできましたが、もちろんこれで充分という訳ではありません。学校法人以外の他の法人制度の先進的な取り組みも参考にして、継続して取り組んでこそ法人運営の適正化や透明性を確保でき、社会からの信頼を得ることが出来るのです。

大学自身の「意識を変える」ことも必要です。我々の大学では収入の86%を学生からの授業料や入学金に頼っています。我々は建学の精神に立ち返って、学生一人一人を産業界で活躍できる人材に育てて社会に送り出すことにもっと注力すべきだと思います。少子化の問題は何も学校だけのものではなく、産業界でも人材不足という課題にぶつかっています。少子化は我々にとってはチャンスでもあるのです。

中・高にとっても、それぞれの役割を的確に捉えて社会のニーズに合った特徴を伸ばすことが重要です。そして、社会に向けてそれらをどうアピールするかも大事な戦略のひとつだと思います。

多くの課題を抱えた学園ですが、創立100周年に向けて皆で力を合わせ、決意を込めた一歩を踏み出しましょう。



大阪産業大学 学長

中村 康範

創立90周年を迎えて

「まだ経験していないことを知るチャンスとして」

昭和3(1928)年大阪鉄道学校が設置され、改組を行いながら昭和26(1951)年学校法人大阪交通学園に改称、そして昭和50(1975)年に学校法人大阪産業大学に改称し創立90周年を迎えます。

本法人は、中学校から大学院までの各機関が「偉大なる平凡人たれ」を建学の精神として掲げ、社会に貢献できる人材の育成に協働して取り組んでおります。

機関の中で、大阪産業大学は教育の最高学府として卒業生約93,000人を社会へ輩出してきました。教育面では、ローカルとグローバルを兼ね備えたグローバルな視野を育むための「生きる力」の育成に力を注いできました。中央キャンパス5号館の南側に「徳・知・体」のモニュメントが設置されています。これは「生きる力」とは徳・知・体のバランスのとれた力だということが視覚的に明瞭に表現されているものと思います。

学部学科の教育においては、確かな学力を担保するために、次の点に注力しています。

1つ目は、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度(主体性・多様性・協働性)を育む教育。

2つ目は、知識・技能を活用して、自ら課題を発見しその課題に向けて探求し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力を育む教育。

3つ目は、「知識・技能」を育む教育。

この3つは、本学が力を入れている「ディープ・アクティブ・ラーニング」にも通じ、「教わる」から「身に付ける」教育が「確かな学力」のベースとなっています。

正課活動(講義、実験、演習、フィールドワーク、卒業研究等)と正課外活動(クラブ、ボランティア、サークル活動等)を通じて多様なことを経験することが、まだ経験していない社会を知る「道しるべ」となっています。これからも我々は大阪産業大学、学校法人大阪産業大学の歴史を積み重ねていきますので、今後もご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。



大阪産業大学附属中学校高等学校 校長

平岡 伸一郎

創立90周年を迎えて

本校は、昭和3(1928)年11月に大阪鉄道学校として認可を受け、第一歩を踏み出しました。その後、昭和13(1938)年2月に大阪第一鉄道学校が、昭和23(1948)年4月に大阪第一高等学校が設立されました。更に校名の変更が続き、昭和24(1949)年12月に大阪鉄道高等学校に、昭和50(1975)年4月に大阪産業大学高等学校に、平成8(1996)年4月に大阪産業大学附属高等学校に改称され今に至っています。

つまり、大阪鉄道学校を学園の源泉として、本校は学園の本流として90年の流れを作ってきたと言えます。この本流から今では大学院、6学部を設置する大阪産業大学、大阪桐蔭中高、大阪産業大学附属中高という3本の豊かな流れができあがり、本学園は総合教育機関として大きく成長して参りました。学園の礎を築き、今日を創られました多くの学園関係者の皆様に対しまして心から深く敬意を表します。

振り返りますと10年前の創立80周年即ち平成20(2008)年当時の本校は、少子化対策や魅力ある学校創りのため学校改革に取り組んでおりました。そして以後の10年間は、新校舎建設、耐震工事など施設・設備への投資、コースの独自性を前面に出したコースの再編成及びカリキュラムの改正、進路保障対策、生徒募集・広報体制の整備などを掲げて、今日まで目標達成のため努力して参りました。

まだまだ課題は山積しているものの、卒業生を含めた生徒、保護者の協力を得つつ、職員が努力したことにより、学校創立以来、社会に貢献できる、将来を担える有為な人材を輩出し続けてきたと自負しています。

今後も創立100周年に向けて、建学の精神「偉大なる平凡人たれ」の教えを堅持しながら、職員一丸となって取り組んで参ります。生徒・保護者・卒業生をはじめとする全ての学園関係者の皆様には、なお一層のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



大阪桐蔭中学校高等学校 校長

今田 悟

学園創立90周年を迎えて

昭和3(1928)年、建学の精神「偉大なる平凡人たれ」を掲げ大阪鉄道学校としてスタートした本学園は、今や生徒数2,000名の大阪産業大学附属中学校高等学校、学生数8,200名の大阪産業大学、生徒数2,500名の大阪桐蔭中学校高等学校を擁する学園へと発展を遂げました。さまざまな困難を乗り越え90周年を迎えることができたのは、大きな喜びであり、90年の長きにわたり社会に貢献してきたことは誇りであります。学園創立90周年を迎えるにあたり、学園の発展にご尽力くださった職員を始めとする関係者の皆さまに敬意を表するとともに、本学園を母校に選んでいただいた現役生・卒業生・保護者の皆さまに心よりお礼申し上げます。

昭和58(1983)年に大阪産業大学高等学校大東校舎として開校し、昭和63(1988)年に独立した大阪桐蔭は、平成7(1995)年の中学校の開校を経て、入学者数を増やしてきました。難関国公立大学、国公立大学医学部医学科などへの進学実績を伸ばす一方で、スポーツ、芸術の分野での活躍が目立つのも本校の特色です。一番に生徒の頑張りがあって、指導する職員、サポートしていただく保護者の皆さまの力がひとつになっての結果だと思っております。そして、結果だけを重視するのではなく、過程を大切にしなければならぬとも思っております。

今後ますます少子化が進んでいく中、さらに歴史を刻んでいくためには、揺らぐことのない強い信念を持ちながら、正確に先を読む力、時代の変化に柔軟に対応できる力を持たなければなりません。ひとりでも多くの生徒が目標を達成できるよう、大学・附属中高と連携をとりながら、さまざまなことに取り組んでいきたいと考えております。なお一層のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



学園を支える受け継がれた 「伝統」と「誇り」

後援会・同窓会

大阪産業大学後援会 (大学の保護者の会)

大阪産業大学後援会は、大学と家庭との連絡を密にし、学生の福利厚生に対する援助と大学の発展に寄与することを目的に1974(昭和49)年に設立されました。



- 会員総数 / 8,242人(2018年4月1日現在)
- 会 長 / 川合 正哉

大阪産業大学校友会

大阪交通短期大学及び大阪産業大学、大阪産業大学短期大学部の卒業生により1970年1月1日に結成され、その後、大阪産業大学大学院修了生を統合しました。海外はじめ全国各地に39支部が結成されています。



- 会員総数 / 92,620人(2018年4月1日現在)
- 会 長 / 弓場 修治

大阪産業大学附属中学校・高等学校後援会 (中学校・高等学校生徒の保護者の会)

大阪産業大学附属中学校・高等学校後援会は会員相互の連携・協和を計り、本校生徒の福利を増進し、教育目標の達成に協力・援助を惜みず、本校の振興発展に寄与することを目的に設立されました。



- 会員総数 / 2,212人(2018年5月1日現在)
- 会 長 / 杉本 正之

大阪産業大学附属高等学校同窓会

大阪鉄道学校の卒業生により1933(昭和8)年に結成されました。その後、第一鉄道学校、大阪第一中学校、大阪鉄道中学校、大阪第一高等学校、大阪鉄道高等学校、大阪自動車工学専門学院、大阪自動車高等整備学院、岡山自動車高等整備学院、大阪産業大学高等学校の卒業生を統合しました。1996年4月の校名の改称により現在の名称で運営されています。



- 会員総数 / 53,192人(2018年4月1日現在)
- 会 長 / 片岡 満

大阪桐蔭桐友会 (中学校・高等学校生徒の保護者の会)

大阪桐蔭桐友会は、会員相互の連携・協和を計り、生徒の福利を増進し、教育目標の達成に協力・援助を惜みず、本校の振興発展に寄与することを目的に、1986(昭和61)年に設立されました。



- 会員総数 / 2,547人(2018年5月1日現在)
- 会 長 / 小寺 貴也

大阪桐蔭高等学校同窓会

大阪桐蔭高等学校同窓会は、会員相互の交誼を図り仁徳の研鑽に務め、以って母校の発展に寄与することを目的に、1988(昭和63)年11月に設立されました。



- 会員総数 / 17,380人(2018年5月1日現在)
- 会 長 / 三木 康生

Vision100

10年後もその先も
選ばれ続ける学園であるために

学校法人 大阪産業大学

10年後もその先も 選ばれ続ける学園であるために

平成30(2018)年に創立90周年を迎える学校法人大阪産業大学は、昭和3(1928)年、瀬島源三郎により大阪鉄道学校として創立されました。

以来、建学の精神「偉大なる平凡人たれ」の下、一貫して、実社会を支える有能な人材育成を目標に掲げ、社会に貢献できる質の高い教育機関を目指して注力し続け今日に至ります。現在では大阪産業大学(6学部13学科、大学院4研究科)、大阪産業大学附属中学校高等学校、大阪桐蔭中学校高等学校を設置し、学生・生徒数は約13,000名、職員約700名を擁する教育機関に成長すると共に、これまで実に16万余名の卒業生が社会に巣立っております。

これもひとえに、各界各層からのご理解とご支援の賜物と心より感謝いたします。

一方、私学経営の環境を見ますと少子化の影響により、大学の主要指標である18歳人口は、今後10年間で約118万人から106万人に約11%減少すると予想され、非常に厳しいものとなります。本学園が拠点を置く近畿地方に

限っては一層深刻なことに約20万人から17万人へと、約15%減少します。また、私学経営環境の悪化のひとつとして、大学進学率の頭打ちが挙げられます。これまでは大学進学率の上昇により、少子高齢化による大学進学者数への影響は緩和されてきましたが、近年は緩やかとなりこれ以上の上昇を見込むことは難しいと予想されます。

このような厳しい状況下において、社会から選ばれ続ける学園であるためには、学園の考えや思いを広く社会に公表する必要があると考え、10年後に迎える学園創立100周年に向けた展望を「Vision100」として示すことといたしました。

また、学園構成員一人ひとりが帰属意識を持ち、「学生・生徒のために」「地域のために」何をすべきか、目標を掲げ行動するための「職員の行動指針」を策定し、これを宣言することといたしました。

今後、職員が一丸となって本Visionの実現と行動指針の実行を通じて、学園の発展と社会への貢献を果たすため取り組んで参ります。



学園を支える受け継がれた 「伝統」と「誇り」

後援会・同窓会

大阪産業大学後援会 (大学の保護者の会)

大阪産業大学後援会は、大学と家庭との連絡を密にし、学生の福利厚生に対する援助と大学の発展に寄与することを目的に1974(昭和49)年に設立されました。



- 会員総数 / 8,242人(2018年4月1日現在)
- 会 長 / 川合 正哉

大阪産業大学校友会

大阪交通短期大学及び大阪産業大学、大阪産業大学短期大学部の卒業生により1970年1月1日に結成され、その後、大阪産業大学大学院修了生を統合しました。海外はじめ全国各地に39支部が結成されています。



- 会員総数 / 92,620人(2018年4月1日現在)
- 会 長 / 弓場 修治

大阪産業大学附属中学校・高等学校後援会 (中学校・高等学校生徒の保護者の会)

大阪産業大学附属中学校・高等学校後援会は会員相互の連携・協和を計り、本校生徒の福利を増進し、教育目標の達成に協力・援助を惜みず、本校の振興発展に寄与することを目的に設立されました。



- 会員総数 / 2,212人(2018年5月1日現在)
- 会 長 / 杉本 正之

大阪産業大学附属高等学校同窓会

大阪鉄道学校の卒業生により1933(昭和8)年に結成されました。その後、第一鉄道学校、大阪第一中学校、大阪鉄道中学校、大阪第一高等学校、大阪鉄道高等学校、大阪自動車工学専門学院、大阪自動車高等整備学院、岡山自動車高等整備学院、大阪産業大学高等学校の卒業生を統合しました。1996年4月の校名の改称により現在の名称で運営されています。



- 会員総数 / 53,192人(2018年4月1日現在)
- 会 長 / 片岡 満

大阪桐蔭桐友会 (中学校・高等学校生徒の保護者の会)

大阪桐蔭桐友会は、会員相互の連携・協和を計り、生徒の福利を増進し、教育目標の達成に協力・援助を惜みず、本校の振興発展に寄与することを目的に、1986(昭和61)年に設立されました。



- 会員総数 / 2,547人(2018年5月1日現在)
- 会 長 / 小寺 貴也

大阪桐蔭高等学校同窓会

大阪桐蔭高等学校同窓会は、会員相互の交誼を回り仁徳の研鑽に務め、以って母校の発展に寄与することを目的に、1988(昭和63)年11月に設立されました。



- 会員総数 / 17,380人(2018年5月1日現在)
- 会 長 / 三木 康生

Vision100

10年後もその先も
選ばれ続ける学園であるために

学校法人 大阪産業大学

I. 学園総合力の強化に向けた行動戦略

1. 建学の精神「偉大なる平凡人たれ」に基づいて、中学校から大学院に至る総合教育機関として、社会の要請に応える教育研究体制を整備する

■大阪産業大学

○目指す人物像

建学の精神「偉大なる平凡人たれ」を念頭に置き、社会人としての教養と倫理観を養い、思いやりとやさしさの精神を持ち、変化の激しい社会に対応する能力と主体的に取り組む意欲により、社会と産業に貢献することができる実践的「産業人」を育成する。

○学びのかたちの新しい展開

大阪東部の「ものづくり」が特色である地域社会と大阪湾から生駒山脈へ連なる自然環境に根ざした教育、将来のキャリアを見通した教育を実現する大学として、豊かな人生を歩むことができる学生を育む。

- (1) 確かな基礎学力、課題を発見し必要な情報を収集できる力、協働する力を身に付け、社会と産業における課題を解決できる実践的な能力を開発することにより、激変する情勢の中で新たな価値を産み出し、未来の社会に対応できる「生きる力」を養成する教育を行う。
- (2) 学科の鏡となる学生の育成を行い、アクティブ・ラーニング、ICTの活用による基礎学力の向上を図り、学生がさらに能力を伸ばすことができる教育を行う。
- (3) 高校から大学へのスムーズな移行を図る高大接続プログラムを充実させ、地域の自然環境・産業社会に結びついた教育を行う。さらに、学生の就職力が向上する教育を目指す。
- (4) 学生の学習状況・出席状況等を把握し、かつ入学から卒業までの教育成果を分析するためのIR (Institutional Research) 分析を充実させ、個々の学生の状況に応じた履修指導をきめ細かく行う。また、IR分析の結果に基づき、教育カリキュラムの改善を定量的かつ継続的に行う。

■大阪産業大学附属中学校高等学校

○現代社会で活躍できる「人間力」を備えた人材の育成

建学の精神「偉大なる平凡人たれ」に基づいた教育を推進し、「知識」と「知恵」を備え、かつ、「努力することを厭わない」「与えられたことを責任を持ってやり遂げる」ことのできる生徒の育成に努める。

■大阪桐蔭中学校高等学校

○中高一貫教育を通しての人間力育成

建学の精神「偉大なる平凡人たれ」、教育実践目標「^{ていりつ} 鼎立成りて^{せきりょう} 碩量を育む」の下、相手を思いやり、周囲に気配りのできる「優しさ」、得た知識を活用できる思考力・判断力・表現力を兼ね備えた「賢さ」、遅く生きるための「強さ」の徳・知・体のバランスのとれた生徒の育成に努める。

2. 各学校の特色を尊重しつつ、中高一貫および高大接続の教育・スポーツ連携による相乗効果を最大限に生み出す仕組みを構築する

○高大接続、高校間連携の強化

- (1) 大阪産業大学附属高等学校にて、大阪産業大学入学後に単位認定される授業や大学高校合同による海外研修等を実施する。
- (2) 大阪産業大学と大阪桐蔭高等学校とのスポーツクラブ合同練習やスポーツ施設を有効利用する。
- (3) 大阪産業大学附属中学校高等学校と大阪桐蔭中学校高等学校とのスポーツ連携、合同練習やスポーツ施設を有効利用する。

3. 地域における「知の拠点」「生涯学習の場」「社会人の学び直しの場」として地域とのかかわりを強化し、地域の問題解決および実践教育を行うプラットフォームを構築する

■大阪産業大学

○地域に必要とされる大学へ

地域社会、企業、学校等と連携した教育研究を行い、将来の地域社会・産業に必要な産業人を養成すると同時に、学びの場の拠点となることを目指す。

- (1)大阪東部など「ものづくり」を特色とする地域の企業との製品開発・共同研究等を積極的に行い、商品開発、特許など知的財産の獲得を推進する。
- (2)地域の産業人に経営・技術・技能等に関する教育を提供する。
- (3)アジア地域を中心としてグローバルな視点を持ちながら、地域貢献に対応できる学生を育成するため、海外の大学との交流を図る。
- (4)地域企業へのインターンシップを促進する。
- (5)大東市と連携し「環境」「観光」「健康」の3つのテーマで行っている大東シニア総合大学をさらに発展させ、地域の活性化に貢献する。

■大阪産業大学附属中学校高等学校

○地域から支持される学校作り

地元地域との連携の強化を図り、地域住民との交流を深め、また地域への貢献を果たすことで地域から支持される学校作りに努める。

■大阪桐蔭中学校高等学校

○地域に評価される学校作り

地域と連携・協力して教育課題を共有しながら、その解決を図り、地域に根ざした質の高い教育を目指す。

4. 学生・生徒の安心・安全および快適さを備えた地域に開かれたキャンパス整備を推進する

■大阪産業大学

○キャンパスライフの質的向上

学生の安全、健康を守るための教育と環境整備を進める。感性豊かな学生生活を送ることができ、かつ学生・教員が対話し「生きる力」を身に付けるための教育環境を整え、教室の整備、福利厚生のための施設・設備の充実を図る。

- (1)大学キャンパス整備計画に沿って教育研究環境の充実を図る。
- (2)地域の方々にも利用頂けるような魅力ある食堂への改善を行い、地域に開かれたキャンパス整備を進める。

■大阪産業大学附属中学校高等学校

○教育環境の整備

新校舎建築に向けての検討を進め、ICT教育環境等の施設・設備の充実を図り、安心・安全・快適、かつ効率的な教育が進められよう努める。

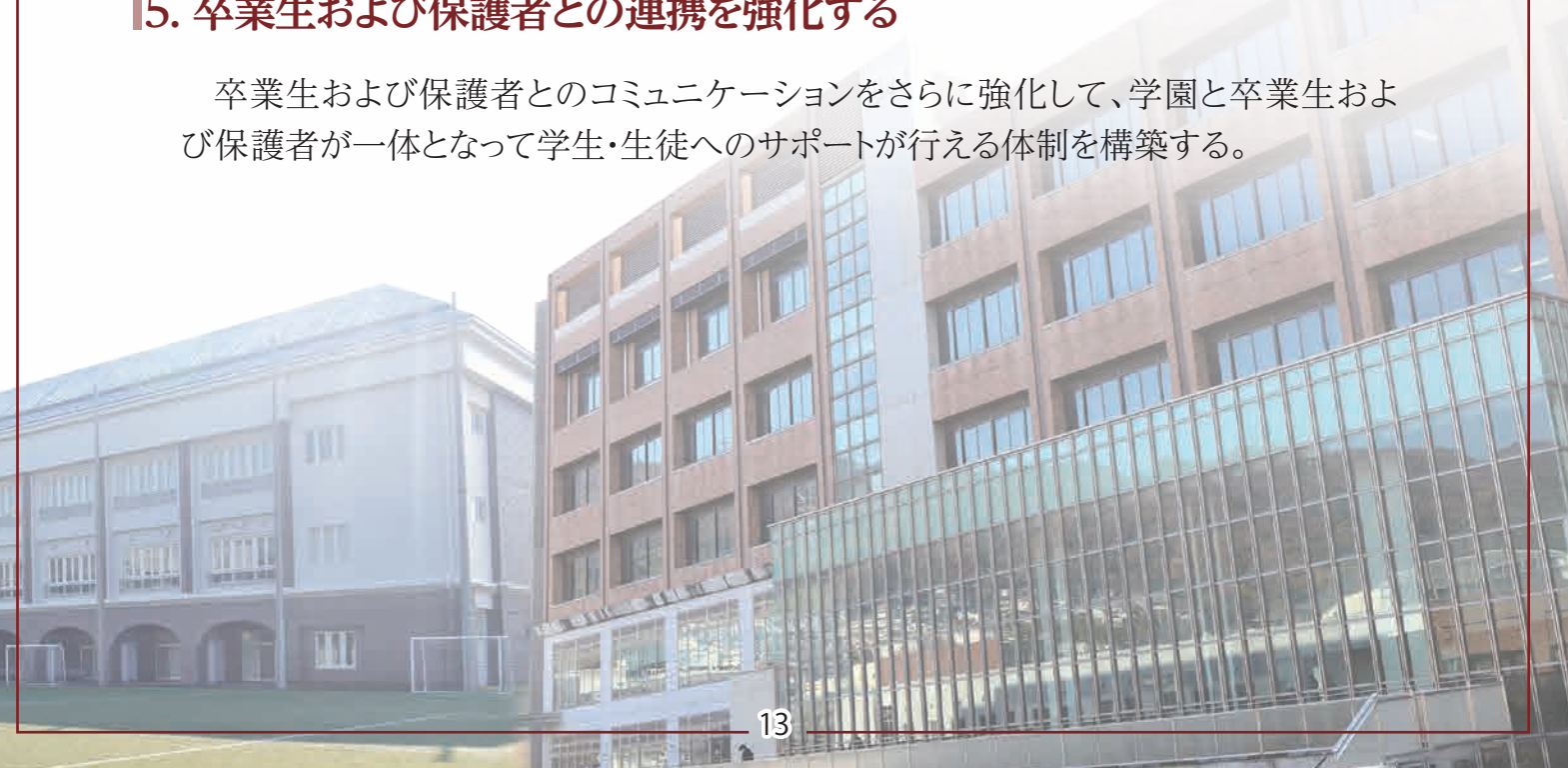
■大阪桐蔭中学校高等学校

○教育環境の整備

施設の老朽化対策、ICT教育環境、エコスクール化、さらには、安心・安全で豊かな学びを可能にする教育環境の整備を進める。

15. 卒業生および保護者との連携を強化する

卒業生および保護者とのコミュニケーションをさらに強化して、学園と卒業生および保護者が一体となって学生・生徒へのサポートが行える体制を構築する。



6. 各機関においてブランド力の確立・強化を目指した取り組みを積極的に行い学生・生徒が自信と誇りを持てるよう努める

■大阪産業大学

○産大ブランドの確立

在学生・卒業生が産大人であることを誇りに思うことができる大学とする。学部・学科のシーズを創造・発信し、産業・社会に貢献できる大学とする。

- (1) 大学院および学部の教育研究内容の特徴を明確に示し、ブランドを確立する。
- (2) 本学の研究成果から得たシーズを企業等との共同研究・製品開発につなげ、有為な産業人を育成する。
- (3) 個々の学生にとってふさわしい就職ができるよう教育し、かつ総合的なキャリア支援を行う。
- (4) 継続的な広報により、大学の教育研究活動を社会に向けて発信する。

■大阪産業大学附属中学校高等学校

○産大附属ブランドの確立

高等学校の2科5コースの特長を明確化し、それぞれのコースが高い目標を掲げ、実践することによって、すべての生徒が自信と誇りを持てるよう努める。

■大阪桐蔭中学校高等学校

○大阪桐蔭ブランド力の強化

中学校・高等学校I・II・III類の教育重点目標を明確にし、系統性・計画性をもって、教育活動に励み、生徒一人ひとりが桐蔭生としての自信と誇りを持ち、社会に貢献できる人材の育成に努める。

II.組織・人事戦略

1. ガバナンスの継続的な強化

- (1) 理事会、評議員会および監事会での審議内容を充実させ、意思決定機能および牽制機能を強化する。
- (2) 学園は公共的な存在であるとの認識のもと、幅広く外部有識者から意見聴取し、社会の信認に応えていく。

2. 内部統制システムの充実および強化

- (1) 学園諸規程および意思決定の仕組み(業務プロセス)を継続的に見直し、組織の健全性と効率性を両立させる仕組みを構築する。

3. 帰属意識の向上、自由闊達な組織風土の醸成、職員の士気向上およびコンプライアンスの浸透を図る

- (1) 職員が一丸となり、自由闊達な雰囲気の中、共に前進する環境を整える。
- (2) 事務職員の能力を最大限に発揮できる人事制度の確立—目標管理制度、賃金制度および昇格制度等の整備・見直しを行う。
- (3) 階層別研修、目的別研修、コンプライアンス研修等、研修制度の充実を図る。

III.財務戦略

1. あらゆる収入増加策を図り、経営基盤を安定化させる

- (1) 適正な授業料収入の確保に加えて、補助金を始めとした外部資金の受け入れや着実な資産運用による収入など、あらゆる収入増加策を図る。
- (2) 健全な財務基盤を確立し、キャンパス整備を含む教育環境の充実を図る。
- (3) 収入増により、財務体力を強化させ、学園経営の永続を目指す。

2. 費用対効果を検証し、支出内容の質を高める

- (1) 各機関での事業内容の優先度を整理し、予算を効果的に配分する。
- (2) 事業活動の支出に対する検証を行い、冗費を節減する。



学校法人大阪産業大学 職員の行動指針

学校法人大阪産業大学は、建学の精神および教育理念に則り、教育研究の発展に努め、これらの活動を通して広く社会に貢献します。

本学園の役員および職員は、教育研究および社会貢献を担う機関として本学園に課せられた社会的使命を認識し、高い倫理観と社会的良識に則って行動します。

① 教育の推進

私たちは、建学の精神「偉大なる平凡人たれ」に基づき、実学教育とその基となる基礎教育の実践により、変化する社会において柔軟に対応できる“応用力”を持ち、社会に貢献できる人材(産業人)を養成します。そのために、常に学生・生徒への教育や指導の向上に励み、学生・生徒の満足度の向上に努めます。

② 人権の尊重

私たちは、学生・生徒、本学園で働く全ての職員の基本的な人権、人格、価値観、プライバシーを尊重し、暴力行為、ハラスメント、差別的言動に対して厳正に対応します。

③ コンプライアンスの徹底

私たちは、法令および本学園の諸規程を遵守して誠実かつ公正に職務を遂行し、高い倫理観と社会的良識に則って行動します。

④ 社会貢献の推進

私たちは、地域社会から多大な支援を受けていることを自覚し、地域社会との交流や相互協力を通じて、地域社会の発展に貢献すると共に、教育研究の成果を積極的に社会に還元します。

⑤ 改革の推進

私たちは、自身の業務に対して誇りと責任を持ち、常に能力の向上、業務の効率化に努めます。また、自ら考え能動的に行動し、新しいことにチャレンジする姿勢を持ち続けます。

学園創立90周年記念事業

記念事業概要

総事業費2億3千万円《内、募金目標額:2億円》

記念事業は、学生・生徒の修学環境整備の支援を目的として行います。

〈実施期間〉

平成29年4月1日～平成31年3月31日

大阪産業大学 関係

事業費: 1億5千万円

学生施設の充実

- 16号館3階 学生ホール設置(学生の集いの場所)
- 東キャンパス ラーニングcommons設置

教育設備の充実

- モニター、プロジェクター、マイク設備等の更新

大阪産業大学附属中学校高等学校 関係

事業費:4千万円

生徒の移動用マイクロバスの購入

各教室の教育設備の充実

- 電子黒板・プロジェクターの設置
- 黒板からホワイトボード付替え

大阪桐蔭中学校高等学校 関係

事業費:4千万円

教育用Wi-Fi環境整備

学園創立90周年記念事業推進本部委員

本部長	理事長		吉岡 征四郎
副本部長	常務理事		峠 孝尊
委員	理事	法人本部事務局長	長澤 裕
委員	理事	大阪産業大学 学長	中村 康範
委員	理事	大阪産業大学附属中学校高等学校 校長	平岡 伸一郎
委員	理事	大阪桐蔭中学校高等学校 校長	今田 悟
委員	理事	法人本部事務局 総務部長	西川 光俊
委員	理事	大阪産業大学 スポーツ健康学部長	齋藤 好史
委員	理事	大阪産業大学 デザイン工学部長	吉田 淳一
委員	理事	大阪産業大学 事務部長	小東 要一

平成30(2018)年4月1日 現在

私の偉大なる平凡人像

学校法人大阪産業大学は、2018年11月に創立90周年を迎えました。

この節目にあたり、学園の学生・生徒のみなさん、

卒業生の方々そして職員を対象に、短い文章作品を募集しました。

テーマは、学園の原点である建学の精神「偉大なる平凡人たれ」にちなみ、

各自が思う「私の偉大なる平凡人像」といたしました。

応募総数466点の中から「私の偉大なる平凡人像」選考委員会による選考の結果、

最優秀作品(1点)、優秀作品(3点)、佳作(10点)が決まりました。

お二人の作品と受賞された皆様のお名前をご紹介します。

最優秀作品

氏名:水谷 夏樹

所属:大阪産業大学 教授(工学部 都市創造工学科)

【「偉大なる平凡人」を受け継ぐ先生方】

本学の工学部には元技術職員と呼ばれていた先生方がおられます。多くは本学の卒業生であり、大学の草創期に卒業された優秀な方々です。私がこれまで聞いてきた話では、大学が立ち上がり、外部から招聘された多くの教授の先生方を支えると同時に実習科目の担当者として40年以上に渡って学生に接してこられました。

学生への接し方を拝見していると、大きな「愛」があり、同時に「厳しさ」もあります。表面上ぶっきらぼうで、中には強面(こわもて)の先生もおられますが、学生にうるさく注意するのも母校の学生を立派に社会へ送り出したい気持ちの表れだと感じます。

長い間、常に縁の下の力持ち役を担われ、ずっと学生寄りの姿勢で学生指導されている様子は、まさに「偉大なる平凡人」を实践されています。

大学の草創期の卒業生である方々が、建学の精神を示し続けておられることは、創設者である瀬島先生の思惑通りなのではないでしょうか。これからもこの歴史と伝統を守っていきたいと思います。

優秀作品

氏名:合田 早加江

所属:大阪産業大学附属高等学校 英語科教諭

【私の祖父】

生前、私の祖父は、製造業を営んでいました。会社は通りに面しており、すぐ横に信号機がありました。まだまだ、たばこのポイ捨てが目立つ時代でしたので、信号で止まった車から、毎回のようにたばこがポイ捨てされていました。祖父は、その吸い殻を、毎朝、背中を丸めながら、一つ一つトングで拾っていました。ある日、祖父の帰りが遅いので、心配していたところ、とぼとぼと歩いて帰ってくる祖父の姿が見えました。事情を聞くと、ゴミ拾いを続けて、気が付けば1キロ以上先の駅まで行っていたというのです。さらに、止めていた自転車もなくなっていたそうです。それでも、祖父は文句一つ言わず、次の日も当たり前のようにゴミ拾いをしていました。「これで綺麗になったわ」とにっこりしていた祖父の顔を今でもはっきり覚えています。

何か特別なことをするのではなく、社会のために小さなことを毎日続けていた祖父を私はとても尊敬しています。自分の富や名声を追わず、いつも会社の周りを掃除する祖父の姿は、私の目指す偉大なる平凡人です。

・氏名:込山 恵美

所属:大阪産業大学附属中学校 保護者

・氏名:金本 三夢

所属:大阪桐蔭高等学校 3年生

佳作

・氏名:池田 隼人

所属:大阪産業大学附属高等学校 1年生

・氏名:中越 司

所属:大阪産業大学附属高等学校 2年生

・氏名:安藤 豪之助

所属:大阪桐蔭中学校 2年生

・氏名:谷内田 悠

所属:大阪桐蔭中学校 2年生

・氏名:西野 渉

所属:大阪産業大学 卒業生

・氏名:大江 宏内介

所属:大阪桐蔭高等学校 3年生

・氏名:東 雛美

所属:大阪産業大学 経済学部 1年生

・氏名:山田 卓雄

所属:大阪産業大学短期大学部 卒業生

・氏名:日下 晃秀

所属:大阪桐蔭高等学校 3年生

・氏名:谷口 興紀

所属:大阪産業大学 名誉教授

総合力を備えた学園に成長

昭和61年度には、新学部の経済学部経済学科が開設した。総合大学への確かな前進であった。昭和62年6月には、開かれた大学を目指し、大学学会主催の第一回市民講座「情報社会を生きる」が開催された。学会会報第20号に「第一回市民講座報告」が掲載され、市民講座の実現が学会企画委員会と協賛団体である大東市、大東市商工会の助力であることが伺え、今日の大東市との包括協定（「大東シニア総合大学」や名物紹介冊子「だいたいええもん」、等）に繋がっている。

全国的な進学率の伸びや産業界の「ポスト工業化」が進み、「高度な専門的職業人の育成」が大学院拡充として求められる中、昭和63年度には大学院工学研究科（土木工学、電気電子工学専攻）の設置が認められ、学部・大学院の整備による教育と研究の体制が進んだ。更に大阪産業大学高等学校大東校舎は大阪桐蔭高等学校として分離独立した。

昭和63年10月には、かねてより経営学部を中心に学術交流を進めてきた西ドイツのヴェルツブルク大学と本学園の間で国際協力を

関する基本協定が締結された。400有余年の歴史を持つヴェルツブルク大学との国際協力協定は、学園の国際的学術研究を前進させた。

昭和64年1月7日、昭和天皇崩御により「激動の昭和」から新たに「平成」の時代に入り、平成元年には大学院工学研究科に機械工学専攻を、さらに平成2年には工学部に情報システム工学科、環境デザイン学科を増設した。

高等学校では、全国的に高まる大学進学需要と個々の生徒の希望に合った進路を提供するための取り組みが行われた。平成元年、大阪産業大学高等学校では国際コース、情報技術コースを設置。平成3年4月、普通科商業コースをビジネスコースに改称し、10月に商業科を廃止、生徒の多様な進路希望への対応を図った。大阪桐蔭高等学校では普通科国際コース、翌年には普通科理数コースが開校となり、中等教育機関としての整備が進んだ。

平成2年、大学では工学部に情報システム

工学科、環境デザイン学科の増設、平成7年、経営学部流通学科の増設、平成10年には大学院経済学研究科アジア地域専攻が設置され、以後、大学院の充実が図られていく。平成11年、経済学部国際経済学科を増設し、大学院では、経営・流通学研究科修士課程流通システム専攻が設置された。

平成12年4月には梅田サテライトが大阪駅前第4ビルに開設され、社会人の進学に対応できる夜間大学院の開設、資格取得講座、各種セミナー、講演会、等、多機能に利用された。平成18年4月、梅田サテライトは、施設狭隘のため大阪駅前第3ビルに移設となった。

新たな取り組みとして、大学発ベンチャー企業の設置を進め、平成12年12月に(株)オーエスユーが設立し、その後、新会社設立(株式会社OSU Health Support Academy、有限会社オーエスユー・デジタル・メディア・ファクトリー、アイ・イー・ソリューション株式会社、等)が続いた。



大阪産業大学本館(11号館)竣工(昭和61年8月)



大阪産業大学梅田サテライト(大阪駅前第4ビル)開設(平成12年4月)



学園創立60周年記念式典(平成元年10月)



学園創立70周年記念式典(平成10年10月)

年月

あゆみ

日本・世界の動き

1988

1993

1998

年月	あゆみ	日本・世界の動き
昭和60年4月	大阪産業大学高等学校 土木科を建設科とし、土	昭和60年
昭和61年4月	大阪産業大学 本館(11号館)竣工	4月 NNT、日本たばこ産
昭和62年4月	大阪産業大学 経済学部経済学科 設置	4月 ソ連チェルノブイリ
昭和63年4月	大阪産業大学 大学院工学研究科修士課程土木	4月 18歳人口急増期へ
昭和64年4月	大阪産業大学 大学院工学研究科修士課程土木	4月 阪神・淡路大震災発生
平成元年4月	大阪産業大学 大学院工学研究科修士課程機械	4月 東京証券取引所に「マ
平成2年4月	大阪産業大学 普通科に国際コース設置	4月 東京証券取引所に「マ
平成3年4月	大阪産業大学 普通科に理数コース設置	4月 東京証券取引所に「マ
平成4年4月	大阪産業大学 普通科に理数コース設置	4月 東京証券取引所に「マ
平成5年8月	大阪産業大学 普通科に理数コース設置	4月 東京証券取引所に「マ
平成6年4月	大阪産業大学 普通科に理数コース設置	4月 東京証券取引所に「マ
平成7年4月	大阪産業大学 普通科に理数コース設置	4月 東京証券取引所に「マ
平成8年4月	大阪産業大学 普通科に理数コース設置	4月 東京証券取引所に「マ
平成9年4月	大阪産業大学 普通科に理数コース設置	4月 東京証券取引所に「マ
平成10年4月	大阪産業大学 普通科に理数コース設置	4月 東京証券取引所に「マ
平成11年4月	大阪産業大学 普通科に理数コース設置	4月 東京証券取引所に「マ
平成12年4月	大阪産業大学 普通科に理数コース設置	4月 東京証券取引所に「マ
平成13年4月	大阪産業大学 普通科に理数コース設置	4月 東京証券取引所に「マ
平成14年4月	大阪産業大学 普通科に理数コース設置	4月 東京証券取引所に「マ
平成15年4月	大阪産業大学 普通科に理数コース設置	4月 東京証券取引所に「マ
平成16年4月	大阪産業大学 普通科に理数コース設置	4月 東京証券取引所に「マ
平成17年4月	大阪産業大学 普通科に理数コース設置	4月 東京証券取引所に「マ
平成18年4月	大阪産業大学 普通科に理数コース設置	4月 東京証券取引所に「マ
平成19年4月	大阪産業大学 普通科に理数コース設置	4月 東京証券取引所に「マ
平成20年4月	大阪産業大学 普通科に理数コース設置	4月 東京証券取引所に「マ
平成21年4月	大阪産業大学 普通科に理数コース設置	4月 東京証券取引所に「マ
平成22年4月	大阪産業大学 普通科に理数コース設置	4月 東京証券取引所に「マ
平成23年4月	大阪産業大学 普通科に理数コース設置	4月 東京証券取引所に「マ
平成24年4月	大阪産業大学 普通科に理数コース設置	4月 東京証券取引所に「マ
平成25年4月	大阪産業大学 普通科に理数コース設置	4月 東京証券取引所に「マ
平成26年4月	大阪産業大学 普通科に理数コース設置	4月 東京証券取引所に「マ
平成27年4月	大阪産業大学 普通科に理数コース設置	4月 東京証券取引所に「マ
平成28年4月	大阪産業大学 普通科に理数コース設置	4月 東京証券取引所に「マ
平成29年4月	大阪産業大学 普通科に理数コース設置	4月 東京証券取引所に「マ
平成30年4月	大阪産業大学 普通科に理数コース設置	4月 東京証券取引所に「マ

新学部・新学科の誕生

平成26年4月2日に私立学校法の一部改正が公布・施行された。この改正は平成16年の私立学校法の一部改正を強化するものであった。平成16年改正の私立学校法では、評議員会への「事業計画」の諮問と「事業の実績」の報告、そして「事業報告書」を作成し、公開することが義務化された。教育研究の持続性確保の為に、単年度の計画、実績報告だけでなく中期、長期の計画を策定し、それに裏付けられた方針に基づき、実効性のある年度計画と実績報告が求められる環境が醸成されていった。

学園は平成26年4月に「学校法人大阪産業大学 中・長期計画」を策定し、これは、学園創立100周年に向けて、私立学校の厳しい競争環境の下で、機動的な対応を主体的に内外に示したものととなった。

同年9月には、大学と大学の所在地である大東市との間で包括連携協定を締結した。誰もが住みたくなるまち、誰もが学びたくなる大学、大阪産業大学が開校以来培ってきた「実学」を社会貢献機能として、また、大学独自の個性でもある地域貢献、産学官連携、国際交

流、等々の展開力を包括連携協定として具体化した。大学と大東市は、それまでも平成20年の「だいとうシニア環境大学」、平成21年の総合型地域スポーツクラブ「いきいき大東スポーツクラブ」等で連携しており、平成22年度からは経営学部経営学科観光ビジネスコースの学生を中心とした「だいとう名物実行委員会」が「だいとうのええもん」を発行している。更なる地域との絆の強化が期待される。

平成26年11月、「大阪桐蔭会計処理問題」が新聞に掲載された。この年の12月に第三者調査委員会が設置され、平成27年3月に調査報告書がまとめられた。6月には「大阪桐蔭会計処理問題について」を所轄庁に報告した。

平成27年9月、大阪産業大学とその他4大学（近畿大学、大阪商業大学、東大阪大学、大阪樟蔭女子大学）が東大阪市と連携・協力に関する包括協定合同締結を行った。東大阪市内と隣接地域に在る大学で組織する「東大阪市内大学連絡協議会」で市長と学長の懇談会や地域研究助成事業等を相互協力でも実施してきた関係をより強固にすることを目指し

ている。

平成26年からの5年間の教育・研究は、来たるべき社会で求められる能力、人材の育成を目指して、学園の各機関が改善に取り組んでいる。平成28年4月、大阪産業大学附属高等学校は国際科特進コース、進学コースを一本化し「グローバルコース」に改編し、より一層国際化に向けた教育を推進する体制を整備した。同年7月には、大学図書館に、学生のための総合的自主学習環境としてラーニングコモンズが開設された。従来の図書閲覧だけの図書館ではなく、グループ学習、討論会等の様々なタイプの学習を可能にする空間である。更に、大学では、平成29年4月、国際学部、スポーツ健康学部が設置され、デザイン工学部に環境理工学科が増設された。国際学部は、人間環境学部文化コミュニケーション学科を改組し、「国際人の育成」を根幹に異文化体験型の学びを重視している。スポーツ健康学部は人間環境学部スポーツ健康学科から学部・学科に改編し、「スポーツマインドにあふれた人材育成」を打ち出している。環境理工学科は、自然との共生を目指し「理学」、「工

学」の立場から環境問題に取り組める人材育成を掲げての増設となった。

プロジェクト共育は、近年、多彩さを増しており、その中の一つである「歩く人。」on Campus プロジェクトは、学生がスポーツ健康学と医学にまたがる領域、まだ手つかずの新しい領域を学ぶ契機になっているとして、各地域での成果が高く評価され、アメリカスポーツ医学会「EIM on Campusプログラム」で金賞を受賞した。

平成26年からの直近5年間の学園各機関のスポーツ・文化活動は、継続して堅調に活性化して、世界大会、国内全国大会において優勝、上位入賞の記録を残している。活動の分野は、テコンドー、ウエイトリフティング、少林寺拳法、吹奏楽、テニス、ゴルフ、スキー、高校野球、等、多彩である。これらの競技の各々には独自の伝統的な大会の歴史があり、激闘がある。学園のスポーツ振興は「優勝」することだけでなく、課外活動が、学生・生徒自身の研鑽によって人格形成に資する機会となっていることに意義がある。才能ある選手を育成強化すると同時に、大学・高等学校・中学校

において、運動部を擁することの原点は「教育的効果」を学生・生徒に提供することである。また、プロ競技団体やエンターテインメント団体との関係も常に教育機関としてのガバナンスが配慮されねばならない。

海外の教育機関との協定は、昭和63年のドイツ、バイエルン州ヴェルツブルク大学との基本協定に始まり、現在は、中国、韓国、台湾、タイ、ベトナム、ネパール、英国、フランス、フィンランド、カナダ、アメリカと数多くの協定校を有し、相互に留学や研修などの交流を行っている。



大阪産業大学、大東市と包括連携協定締結（平成26年9月）



大阪産業大学、ラーニングコモンズ開設（平成28年7月）



大阪産業大学少林寺拳法部、世界大会で「金」「銀」メダル獲得（平成29年7月）



大阪桐蔭高等学校硬式野球部、第100回全国高等学校野球選手権大会優勝（史上初2度目の春夏連覇）（平成30年8月）

年月	2014	2015	2016	2017	2018
平成26年	4月1日	4月1日	4月1日	4月1日	4月1日
8月1日	8月1日	8月1日	8月1日	8月1日	8月1日
8月2日	8月2日	8月2日	8月2日	8月2日	8月2日
9月16日	9月16日	9月16日	9月16日	9月16日	9月16日
10月19日	10月19日	10月19日	10月19日	10月19日	10月19日
11月1日	11月1日	11月1日	11月1日	11月1日	11月1日
11月6日	11月6日	11月6日	11月6日	11月6日	11月6日
12月8日	12月8日	12月8日	12月8日	12月8日	12月8日
平成27年	4月1日	4月1日	4月1日	4月1日	4月1日
5月11日	5月11日	5月11日	5月11日	5月11日	5月11日
6月1日	6月1日	6月1日	6月1日	6月1日	6月1日
6月5日	6月5日	6月5日	6月5日	6月5日	6月5日
9月16日	9月16日	9月16日	9月16日	9月16日	9月16日
10月4日	10月4日	10月4日	10月4日	10月4日	10月4日
11月2日	11月2日	11月2日	11月2日	11月2日	11月2日
平成28年	4月1日	4月1日	4月1日	4月1日	4月1日
5月16日	5月16日	5月16日	5月16日	5月16日	5月16日
6月28日	6月28日	6月28日	6月28日	6月28日	6月28日
7月1日	7月1日	7月1日	7月1日	7月1日	7月1日
7月5日	7月5日	7月5日	7月5日	7月5日	7月5日
平成29年	1月7日	1月7日	1月7日	1月7日	1月7日
3月9日	3月9日	3月9日	3月9日	3月9日	3月9日
3月19日	3月19日	3月19日	3月19日	3月19日	3月19日
4月1日	4月1日	4月1日	4月1日	4月1日	4月1日
5月11日	5月11日	5月11日	5月11日	5月11日	5月11日
7月20日	7月20日	7月20日	7月20日	7月20日	7月20日
7月25日	7月25日	7月25日	7月25日	7月25日	7月25日
7月30日	7月30日	7月30日	7月30日	7月30日	7月30日
平成30年	1月15日	1月15日	1月15日	1月15日	1月15日
3月31日	3月31日	3月31日	3月31日	3月31日	3月31日
4月1日	4月1日	4月1日	4月1日	4月1日	4月1日
4月4日	4月4日	4月4日	4月4日	4月4日	4月4日
4月19日	4月19日	4月19日	4月19日	4月19日	4月19日
4月20日	4月20日	4月20日	4月20日	4月20日	4月20日
5月22日	5月22日	5月22日	5月22日	5月22日	5月22日
5月29日	5月29日	5月29日	5月29日	5月29日	5月29日
8月21日	8月21日	8月21日	8月21日	8月21日	8月21日

あゆみ

日本・世界の動き

2014
 平成26年
 4月1日
 ・学校法人大阪産業大学「中・長期計画」策定
 8月1日
 ・「教育研究の持続性確保」を目的とした中期、長期の計画を策定し、それに裏付けられた方針に基づき、実効性のある年度計画と実績報告が求められる環境が醸成されていった。
 8月2日
 ・学園は平成26年4月に「学校法人大阪産業大学 中・長期計画」を策定し、これは、学園創立100周年に向けて、私立学校の厳しい競争環境の下で、機動的な対応を主体的に内外に示したものととなった。
 9月16日
 ・同年9月には、大学と大学の所在地である大東市との間で包括連携協定を締結した。誰もが住みたくなるまち、誰もが学びたくなる大学、大阪産業大学が開校以来培ってきた「実学」を社会貢献機能として、また、大学独自の個性でもある地域貢献、産学官連携、国際交流
 10月19日
 ・平成26年からの5年間の教育・研究は、来たるべき社会で求められる能力、人材の育成を目指して、学園の各機関が改善に取り組んでいる。
 11月1日
 ・平成28年4月、大阪産業大学附属高等学校は国際科特進コース、進学コースを一本化し「グローバルコース」に改編し、より一層国際化に向けた教育を推進する体制を整備した。
 11月6日
 ・同年7月には、大学図書館に、学生のための総合的自主学習環境としてラーニングコモンズが開設された。
 12月8日
 ・従来の図書閲覧だけの図書館ではなく、グループ学習、討論会等の様々なタイプの学習を可能にする空間である。
 平成27年
 4月1日
 ・更に、大学では、平成29年4月、国際学部、スポーツ健康学部が設置され、デザイン工学部に環境理工学科が増設された。
 5月11日
 ・国際学部は、人間環境学部文化コミュニケーション学科を改組し、「国際人の育成」を根幹に異文化体験型の学びを重視している。
 6月1日
 ・スポーツ健康学部は人間環境学部スポーツ健康学科から学部・学科に改編し、「スポーツマインドにあふれた人材育成」を打ち出している。
 6月5日
 ・環境理工学科は、自然との共生を目指し「理学」、「工学」の立場から環境問題に取り組める人材育成を掲げての増設となった。
 9月16日
 ・プロジェクト共育は、近年、多彩さを増しており、その中の一つである「歩く人。」on Campus プロジェクトは、学生がスポーツ健康学と医学にまたがる領域、まだ手つかずの新しい領域を学ぶ契機になっているとして、各地域での成果が高く評価され、アメリカスポーツ医学会「EIM on Campusプログラム」で金賞を受賞した。
 10月4日
 ・平成26年からの直近5年間の学園各機関のスポーツ・文化活動は、継続して堅調に活性化して、世界大会、国内全国大会において優勝、上位入賞の記録を残している。
 11月2日
 ・活動の分野は、テコンドー、ウエイトリフティング、少林寺拳法、吹奏楽、テニス、ゴルフ、スキー、高校野球、等、多彩である。
 平成28年
 4月1日
 ・これらの競技の各々には独自の伝統的な大会の歴史があり、激闘がある。
 5月16日
 ・学園のスポーツ振興は「優勝」することだけでなく、課外活動が、学生・生徒自身の研鑽によって人格形成に資する機会となっていることに意義がある。
 6月28日
 ・才能ある選手を育成強化すると同時に、大学・高等学校・中学校
 7月1日
 ・において、運動部を擁することの原点は「教育的効果」を学生・生徒に提供することである。
 7月5日
 ・また、プロ競技団体やエンターテインメント団体との関係も常に教育機関としてのガバナンスが配慮されねばならない。
 平成29年
 1月7日
 ・海外の教育機関との協定は、昭和63年のドイツ、バイエルン州ヴェルツブルク大学との基本協定に始まり、現在は、中国、韓国、台湾、タイ、ベトナム、ネパール、英国、フランス、フィンランド、カナダ、アメリカと数多くの協定校を有し、相互に留学や研修などの交流を行っている。
 3月9日
 ・大阪産業大学、大東市と包括連携協定締結（平成26年9月）
 3月19日
 ・大阪産業大学、ラーニングコモンズ開設（平成28年7月）
 4月1日
 ・大阪産業大学少林寺拳法部、世界大会で「金」「銀」メダル獲得（平成29年7月）
 5月11日
 ・大阪産業大学附属高等学校硬式野球部、第100回全国高等学校野球選手権大会優勝（史上初2度目の春夏連覇）（平成30年8月）
 7月20日
 ・大阪産業大学、大東市と包括連携協定締結（平成26年9月）
 7月25日
 ・大阪産業大学、大東市と包括連携協定締結（平成26年9月）
 7月30日
 ・大阪産業大学、大東市と包括連携協定締結（平成26年9月）
 平成30年
 1月15日
 ・大阪産業大学、大東市と包括連携協定締結（平成26年9月）
 3月31日
 ・大阪産業大学、大東市と包括連携協定締結（平成26年9月）
 4月1日
 ・大阪産業大学、大東市と包括連携協定締結（平成26年9月）
 4月4日
 ・大阪産業大学、大東市と包括連携協定締結（平成26年9月）
 4月19日
 ・大阪産業大学、大東市と包括連携協定締結（平成26年9月）
 4月20日
 ・大阪産業大学、大東市と包括連携協定締結（平成26年9月）
 5月22日
 ・大阪産業大学、大東市と包括連携協定締結（平成26年9月）
 5月29日
 ・大阪産業大学、大東市と包括連携協定締結（平成26年9月）
 8月21日
 ・大阪産業大学、大東市と包括連携協定締結（平成26年9月）

大阪産業大学卒業生



職場の高松建設(株)本社にて



Profile

西出 雅弘氏

- ・大阪産業大学工学部
土木工学科(現都市創造工学科)
昭和55年度卒業
- ・高松建設(株)代表取締役会長



ユニバーシティへの成長に感激

私にとって大学とは、勉強するところであり、ただそのために通う場所でした。今の学生さんは大学生活をエンジョイされていると思いますが、当時の自分にはそんな感覚は全然なくて、土木のことばかり勉強していました。逆にそのことが思い出として残っています。

一番勉強になったのは、土質工学の芹生先生の実験科目です。実験が完了するまで帰れないんですよ。だから夜遅くまでやらざるを得ませんでした。芹生先生から厳しい指導を受けたわけですが、今の自分にはもちろんプラスになって残っています。

昭和56年3月に大学を卒業し、社名が高松組で、木造社屋だった頃の当社に入社。土木の施工管理職として仕事を始め、現場で土木系の仕事をいろいろと任されました。3年目からは、お客さまの土地に賃貸マンションを建築する現場所長を務めました。

その後は様々な部署を経験。仕入れの購買や営業サポート、上場準備の業務、M&Aといった経営管理の仕事をしてきました。

社会人時代で印象深いのは、入社した頃の当社は厳しい会社で、夜遅くまで働いていたことです。大学時代の夜遅くまでの実験が、そのまま続いていたという感じでした。休日也非常に少なかったです。今は働き方改革で改善されましたが、若い頃は本当

によく働いていました。

数年前、採用のために大学を訪れる機会がありました。昔とは大きく様変わりしていて驚きました。私の時代は、広大な敷地に校舎らしい校舎は山の裾野にあった6号館ぐらいしかなかったと記憶していますが、今は立派な校舎が立ち並んでいます。

当時の学食にしても建物がプレハブで、メニューも高校の給食のほうが良かったと思えるほどでした。今はそんなことはありません。まさに「ユニバーシティ」と呼ぶにふさわしい大学になったのだと実感し、誇らしく思えました。

卒業して37年が過ぎた今、当社は大阪産業大学からの卒業生を迎え、私を含め14名にまで増えています。そのほとんどが私と同じ土木工学科(現都市創造工学科)の出身です。その卒業生をみても、非常に立派な学校に発展されたと思います。

創立90周年、本当におめでとうございます。この節目を迎えるにあたり総合大学として更に大きく飛躍されることを願っております。ぜひ当社も大阪産業大学卒業生の力を借りて、ご一緒に成長させていただければと望んでおります。

大阪産業大学附属高等学校卒業生



母校の「瀬島 源三郎」像前にて



Profile

笠間 優雄氏

- ・大阪産業大学高等学校電気科
昭和58年度卒業
- ・大阪市立淀中学校教諭



丁寧な指導を良き伝統に

電気科に入って最初に電気の授業を受けた時、内容が難しかったので、高校生になったんだなと思いました。でも先生方が丁寧に丁寧に教えてくれたり、チームになって教えてくれたりしたので、ついていくことができました。実験・実習も毎週あったので電気科に進んだのを実感し、楽しく受けることができました。

クラブは野球部に入り、ポジションはピッチャーでしたが、球速が伸びなかったのでレギュラーにはなれませんでした。それでもクラブ活動を3年生までやり通しました。それがいい思い出になっています。

担任の先生が若く、生き生きと指導されているのがとてもステキでした。文化祭などの活動にもチャレンジさせてくれ、熱心にサポートしてくれました。そんな姿に感動したので、私も教員志望になりました。

大学で教員免許を取得し、卒業して最初は私立校で1年間教師を務めました。そのあと大阪の市立中学校に移り技術科目を教え続けています。教師生活はもう33年になります。

教え方は、私が産大高校で指導していただいたのと同じ方法です。先生方はすごく一生懸命で熱心だった姿が焼き付いているので、それが手本となっています。とにかくわかりやすく、丁寧に、落ちこぼれが出ないように。そんなふうに生徒たちを指導しています。

一番うれしく思うのは、産大附属高校の卒業生たちが大学を出たあと、母校はもちろん、各種学校の教育職で活躍していることです。卒業生が産大附属高校で教えを受けたのと同じように、熱心に生き生きと教えています。そんな形で母校の良き伝統が継承されていくのは、とても喜ばしいことです。

長年教師をやってきて、いつも感慨深く思えるのは生徒が卒業する時です。卒業式を迎えると、卒業を祝う気持ちと、寂しい気持ちとが交錯しますが、高校では頑張れよと願いながら送り出しています。送り出した後は、同窓会で、成長してすっかりと大人になった生徒たちと再会できるのが、教師ならではの楽しみです。このような教師人生を送れたのも、教師の道に導いてくれた担任の先生のおかげです。

私にとって母校は母親や父親のような存在です。戻れる学校があるというのはとても心強いことです。これからも産大附属高校さん、どんどん発展してってください、と声援を送り続けたいですね。

大阪桐蔭高等学校卒業生



母校の正門にて

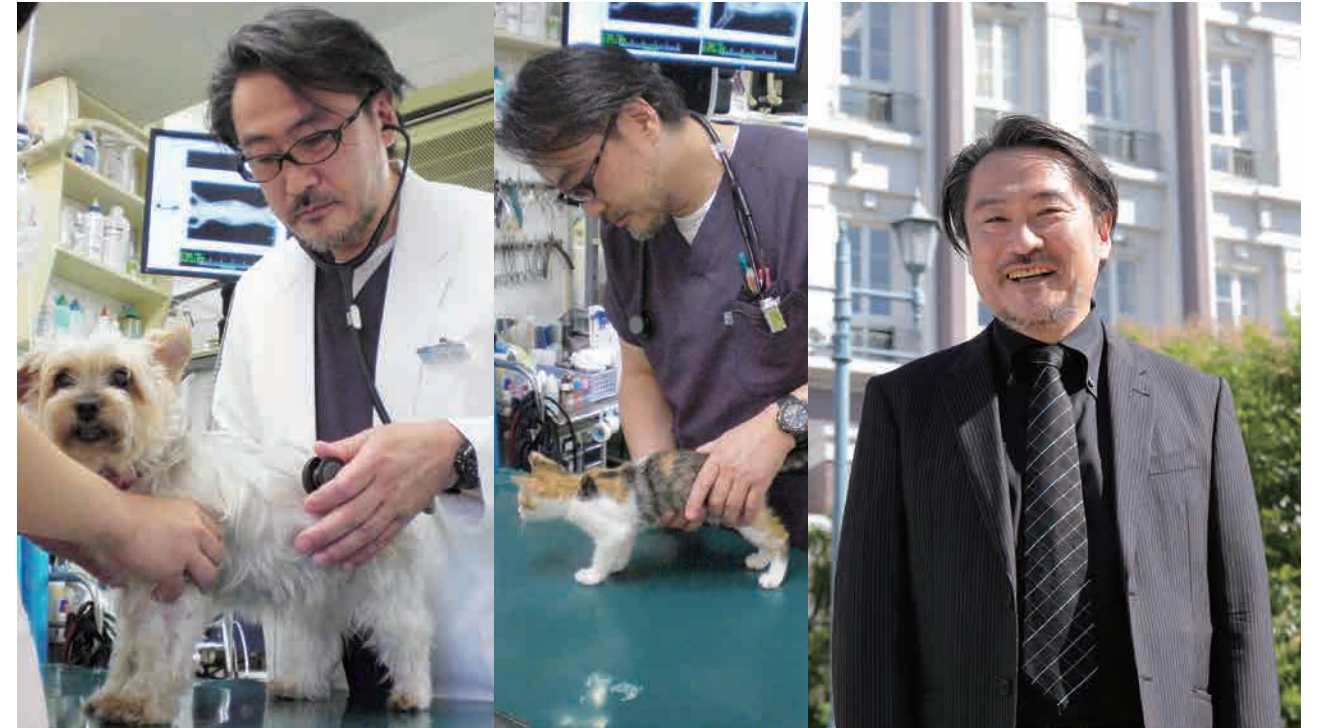


母校本館の裏庭

Profile

小笹 孝道氏

- ・大阪桐蔭高等学校
- ・昭和63年度卒業
- ・おざさ動物病院長



猛勉強を支えてくれた先生方に感謝

高校時代の一番の思い出は、朝から晩までとにかく勉強したことです。当時は遊びたい盛りの高校生だったので、なんでこれほど勉強しなければならないのかという気持ちを抱えていました。普通の高校生なら朝9時開始の授業までに登校しますが、桐蔭高校では授業前に英語や数学の試験がありました。学校が終わって帰宅して、宿題が終わるのも夜中の2時、3時というのがしょっちゅうでした。

私はインターアクトクラブというボランティアサークルに入っていて、JR野崎駅前を掃除したり、養護施設や老人ホームを訪ねて、施設の皆さんと遊んだりお世話をしたりしたことは今もいい思い出として残っています。

獣医師になろうと思ったのは、もともと動物が好きだったことかもしれませんが、ある時、うちの猫を動物病院に連れていった折、ものの言えない動物を治療する獣医師の仕事はすごくいい仕事だと感じたからです。

でも、当時の高校からは未だ獣医学科に進んだ卒業生がいなかったこともあり、先生方は私の獣医学科への進路をすごく気にかけて下さいました。こんな勉強したらどうだ、こんなことも調べたらいいんじゃないとか、手探りで指導して下さいました。そのおかげで初の推薦で合格した酪農大学に進学できました。

大学は北海道、札幌の近郊、江別に在り、周辺は牧草地や原生林が広がり大阪とはまったく違った世界で、環境は最高に良かったです。同じ学科生は9割以上が他府県から来ていて、沖縄、九州も含め日本全国から集まっていました。みんなの目的はただ一つ。獣医師の国家試験に合格することでした。

ゆったりとした環境で6年間を過ごし卒業後は、迷わず大阪に戻り、獣医師として働き始めました。この間、動物病院を取り巻く環境は随分と変わってきたように思います。以前、番犬として飼われた犬も、今ではペットとして飼われるようになってきました。ペットをわが子のように可愛がる飼い主の皆さんに対して獣医師の責任は重大です。普段、病院ではワンちゃん、ネコちゃんの病状や性格を考えて分け隔てなく診療・治療にあたり、飼い主の方に安心して貰えるようにしています。

今、振り返って母校への思いは、感謝の気持ちでいっぱいです。あの頃の先生方のご指導がなければ、当時、あれほどには頑張れなかったでしょう。今、獣医師として仕事をさせて貰っているのも、先生方の熱心な指導のもとで、目標に向かってしっかりと勉強させてもらったからだと思っています。

学園全景

○大阪産業大学 ○大阪桐蔭中学校高等学校本館 / 東館



大阪産業大学附属中学校高等学校



学園創立90周年記念誌 みちしるべ～道標～

平成 30(2018)年11月吉日発行

発行 学校法人 大阪産業大学
大阪府大東市中垣内 3-1-1
TEL.072-875-3001(代)

編集 学校法人 大阪産業大学
学園創立90周年記念事業推進本部会議

印刷 毎日新聞社